学校番号	３０２０B

平成３１年度　　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ａ	単位数	２	年次	２
使用教科書	明解世界史Ａ（帝国書院）						
副教材等	最新世界史図説タペストリー（帝国書院）　明解世界史Ａノート（帝国書院）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・世界史の基本的素養を修得する。
・歴史の大きな変化の原因・経緯・影響について関連させて考察する。
・世界史の流れの中で日本がどう対応し変化してきたか考察する。

２　学習の到達目標

・資料を読み取り、歴史的思考力を培う。
・現代の諸課題について近現代史を中心とする歴史と結びつけ考察することができる。
・世界の歴史を地理的条件や日本の歴史を関連付けながら理解し、国際社会での貢献を期待される日本国民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b：思考・判断・表現	c：資料活用の技能	d：知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する国民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	ワークシート レポート [主題学習] 振り返りシート	定期考査 ワークシート [主題学習] レポート	定期考査 ワークシート [主題学習] 課題シート	定期考査 [主題学習] 内容のまとまり

※　「主題学習」とは主題を設定して行う学習活動で、適切な時間を確保して行う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	前近代の諸文明	各地の諸文明 アジア ヨーロッパ 南北アメリカ	○	○ ○	○	○ ○	a.自然環境と歴史、日本の歴史と世界の歴史を関連付けて関心を高めている。 b. 前近代の諸文明の特色を分類することができる。 c. 設定された主題について諸資料から情報を選択し読み取ることができる。 d.前近代の文明の基本的な知識を身に付けた。	ワークシート 定期考査
	一体化に向かう世界	繁栄するアジア 大航海時代と新たな国家	○ ○	○	○	○	a.ヨーロッパ世界とアジアの文明に関心を持つ。 b.ユーラシア各地の諸文明の特色と交流を資料をもとに理解し、知識を身につけている。 c.大航海時代のヨーロッパの海外進出や社会の変化を理解しまとめることができる。 d.大航海時代の歴史的意義について考察している。	定期考査 ワークシート
2学期	欧米の工業化	欧米の諸革命 自由主義	○	○	○	○	a.欧米の諸革命に関心を持っている。 b.欧米の革命の経緯について整理することができる。 c.１８世紀以降の諸地域世界の変貌に関する諸資料を収集し、読み取ることができる。 d.欧米の革命の意義について理解を深めている。	ワークシート 定期考査
	アジアの動揺	アジア諸国の動揺と変動	○	○	○	○	a.アジア諸国の変動について関心を持っている。 b.アジア諸国の動揺について表現することができる。 c.１８世紀の世界の変化について基本的な知識を身につけ、整理することができる。 d.１８世紀以降の諸地域の変貌を１９世紀の世界の一体化と関連付けて理解している。	ワークシート 定期考査 レポート

	世界大戦	第一次大戦 第二次大戦	○	○	○	○	a.両大戦の経緯に関心を持っている。 b.両大戦がなぜおこったか基本的知識を持っている。c.両大戦の経緯を整理することができる。 d.国際社会の変化について考察を深めている。	ワークシート 定期考査
3学期	冷戦から地球社会へ	冷戦時代 冷戦の終結 地球社会への歩み	○ ○	○ ○	○ ○	○	a.戦後社会の変化の経緯を主体的に学ぼうとしている。 b.国際社会の諸課題に思考を深めている。 c.戦後社会の構造を分析することができる。 d.地球的視野に立って諸課題を考察できる。	定期考査 ワークシート

※　表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
c：資料活用の技能　　d：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。